

令和 7 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立鳥取盲学校

中長期目標	視覚障がいのある児童生徒が自己の持つ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な力を培うとともに、多様な教育ニーズに応じた指導の充実を図る。	今年度の重点目標	①主体的に学習に取り組む態度の涵養を目指す教育の充実（専門性向上） ②キャリア教育の推進（地域やふるさとに誇りと愛着を持ち、未来を創造する力の育成） ③仲間と信頼関係を深め、協力して生活の質を高め合う児童生徒の育成 ④チームで取り組むセンタ－的機能の充実
-------	--	----------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 （ ）月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
①学習指導の充実及び専門性の向上	児童のコミュニケーション能力の向上に向けた指導の充実（小中学部）	○小学部3名の児童が在籍している。友だちの前で自分の意見を発表する機会が増えたことで、相手に分かるように伝えようとする意識が高まってきた。 ○学習では、国語科を中心として学年に応じた表現力、語彙力の育成に努め、児童それぞれの力が高まりつつある。	語彙が増え、自分の思いを伝えたり、自分の考えを表現したりする場面が増える。	○聴覚、触覚、保有する視覚などが十分に活用できる場面を設定する。 ○体験的な活動を十分に取り入れ、具体的な事柄や動きと言葉とが的確に結びつくようにする。 ○教科担当の教員間で連携を図り、語彙を増やすこと、適切な表現の仕方を指導、支援する。			
	○大学進学に結びつく学力の向上 ○思考力・判断力・表現力の充実向上（高等部普通科）	○自らの進路実現に向けて学習に向き合おうとしているが、能動的に学習に取り組む力が弱い。 ○物事の見方、考え方にやや柔軟性を欠き、学習の成果の伝える際、表現に戸惑う場面がある。	○希望する進路の実現。 ○持続して家庭学習に取り組む、学習内容の定着が十分見られる。 ○課題（テーマ）を設定して探究したり、学んだりした学習成果を授業、行事などで適切に表現（発表）できる。	○大学入試を念頭に置いたマンツーマン教科指導と、思考力・判断力・表現力を意識した授業を構成する。 ○適切な課題を提示する。 ○各種行事や自立活動、総合の授業を通じて、自ら立案したり、自分の考えを言葉にまとめ伝えたりする機会を設け、表現力を高めるトレーニングを積み重ねる。			
	I C Tを活用した探究的な学び（教務部）	UDブラウザアプリのPDF版拡大教科書を使用した学習は定着してきているが、他のI C Tを有効活用できていない。	探究的な学びを行う際に、個々の実態に合ったI C Tを適切に活用しようとする。	○I C Tの情報提供を行ったり、研修を実施したりして、使い方を周知する。 ○マニュアルを作成し、いつでもI C Tが使えるようにする。			
	つきたい児童生徒の資質・能力を明確にし、カリキュラム・マネジメントに基づいた授業づくりと実践の共有や評価の検討（教育研究部）	○児童生徒につきたい資質・能力についてグループ研で検討し、共通理解を図り、各教科の担当者間で連携して取り組むことができた。 ○評価についてはあまり検討できなかった。 ○昨年度実施した研究授業・研究協議会で実践の共有ができ、評価のあり方についても講師の先生から指導助言を頂いた。	つきたい児童生徒の資質・能力を明確にし、カリキュラム・マネジメントに基づいた授業の実践と評価ができています。	○年度始めに研究テーマについて全職員で確認し、研究を進める。 ○個別の教育支援計画に基づき、児童生徒をどう育てたいか各児童生徒につきたい資質・能力をグループ研で検討して共通理解を図る。 ○単元配当表を活用し、教科の担当者間で連携し、カリキュラム・マネジメントに基づいた授業を計画し年間指導計画の見直しを図る。 ○3年間の研究のまとめを行う。			

様式 3

②キャリア教育の推進	生徒一人一人の進路実現につなげるための具体的な体験を通した深い学びの充実（保健医療科・専攻科医療科）	○生徒は資格を活かして働くことを目標に学習している。 ○生徒個々の具体的な進路目標や課題は様々である。	○理療の知識・技術を活かした就労生活、自立した社会生活ができる力が向上している。 ○様々な実習体験や学習を通して、生徒の進路目標や目標達成のための具体的な方策が明確になっている。	○個々の進路目標を具体化するため、生徒一人一人の進路希望に合わせた見学実習や進路懇談等を充実する。 ○実習・体験に向けて科目間連携を意識した学習を充実する。		
	発達段階に応じたキャリア教育の充実（支援部）	○小学生から成人まで、発達段階や生活年齢の幅が広く、生活や学習の課題が多岐にわたっている。 ○自己の生き方や進路実現に向けて、体験活動を進めている。	○児童生徒がキャリアパスポートの目標達成に向けて取り組んでいる。 ○生徒のニーズに応じた体験活動や情報提供により、進路実現に向け自己選択・自己決定している。	○キャリアパスポートの夢・目標の教室掲示や情報提供により家庭・教職員間の共通理解を図り、学校・家庭が目標達成に向け、それぞれの役割を果たす。 ○進路実現に向けて見学や体験学習、各種模擬試験等、部科と連携し実施する。 ○生徒と個別に面談を行い、ニーズに応じた情報提供を行う。		
	卒業後の社会参加、自立した生活を意識した主体性、自己管理や柔軟な対応力の育成（寮務部）	個別の教育支援計画のもとに、舎生一人一人の特性を理解し、学校や家庭と連携を密にしながら社会自立へ向けての指導支援を行っている。舎生の年齢や人数が変わり、一緒に活動する機会は減っているが、他者を気にかける言動は見られる。	個別の教育支援計画の目標を意識した、舎生一人一人の主体的な行動や自らを調整し物事に柔軟に対応しようとする姿が増えている。	○個別の教育支援計画のもとに、舎生一人一人の実態や特性を理解し、社会自立に向けた指導支援を行う。 ○主体性育成のための指導・支援を、保護者・保証人、部科と連携しながら学校全体で組織的に行う。 ○寄宿舎の当番活動等で、舎生が集団生活や他者を意識し協力できる場面や時間を設定する。		
③仲間と協力する児童生徒の育成	異年齢集団による児童生徒会活動や行事等を通じた思いやりの精神や企画・調整・発信力などの社会生活の基盤の育成（指導部・イノベーションプロジェクト実行委員会）	○今年度は小2から専攻科の大人までの幅広い年齢層、全校児童生徒7名の児童生徒会である。 ○児童生徒はこれまでの活動で仲間と協力しながら主体的に取り組む経験を積み重ね、自信を付けてきている。	学部を超えて主体的に協働・工夫・課題解決する実践力が育つとともに、活気ある学校や温かい校風づくりにつながっている。	○教職員は児童生徒の話し合いが主体的に行えるように見守りつつ最小限の助言を行う等の支援をする。 ○児童生徒教職員は企画運営の振り返りを行い、次の行事の改善につなげる。		
④センターの機能の充実	積極的な情報発信によるセンターの機能の周知と視覚障がい理解啓発、指導支援の充実と推進（支援部）	○県内に弱視学級が9校あり、視覚障がい教育や具体的な支援についての研修や相談のニーズがある。 ○見えづらさのある乳幼児の保護者、在籍園から発達や支援についての相談のニーズがある。	○積極的な情報発信と本校の周知を行い、校内の人材を活用した見え方等に応じた支援が行われている。	○視覚障がい教育や支援方法の理解を深められるよう、県内弱視学級とGoogleClassroomを作り、研修会や交流会の案内を積極的に行う。 ○相談内容を把握し見え方に応じた支援を充実させるため、見え方相談を実施する。 ○適切な情報提供を行い、就学支援をすすめる。		

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]